



## ● 最近の稲澤家 ●

たよりのペースもゆっくりとなり、なばたけの家族の様子をお伝える機会が減る中、5人の子も達もすくすく成長し、長男18才、末っ子も8才となりました。田植え前までの作業と休校がまさにドンピシャ。今年は家族総出の米作りとなりました。(エリナ)



新米の挨拶文と絵を担当してくれたももか!



長男が東京に発つ前に制服でパチリ。兄弟そろっての写真は貴重!

## 【コロナで休校で米作り!!】

「おかしいな  
おかしいな。穴でも開いているのかなぁ?」と首をかしげながら家に携帯電話を取りに戻ってきた宗一郎。コンバインの籾を貯めるタンクに穴がないか農機具屋さんに確認してもらおう。そう今日は、待ちに待っていた稲刈り初日。品種はコシヒカリ。最後の最後で、スコールのような雨と、暴風雨で稲は倒れてしまったけれど、生育は順調なはずだった。そう、はずだったのだ。

例年だと、我が家にはいろいろな国から、お米を作るところを体験してみたい、日本の文化に関心があるという人たちがWWOOF ホストの我が家にやってきていた。今春もフランスやアメリカから来る予定も決まっていたが、この新型コロナウイルスで国の行き来も、県をまたぐのさえ難しくなってしまった。そこで、大活躍してくれたのが、コロナの影響で学校が3月から休校となって家で待機しているなばたけの子どもたち。長男は3月末に4月からの学校に備え東京での生活にと旅立っていったので、残る4人。16.14.11才の男子3人、8才の女子1人。これが10年前であれば、子守で本当に大変だったと思うが、腕力もたくましさも備わった今、想像以上に大活躍してくれ、心底助かった。そういえば、2018年での豪雪でも同じこと感じていたっけ。

農作業は1+1が2ではなく、3にも4にも10にもなってくれる。普段、宗一郎が一人でこなせる面積での米や大豆や麦作りであるが、米作りの種蒔きや苗代、細々したものが大量に出た後の片づけなど要所要所には人手が必要になる。

というわけで、なばたけでは休校中、子どもたちは田んぼの手伝いや、庭の草取り、薪割り、ごはんづくりと、暇を持て余すことなく過ぎた時間だった。小さい時は遊びとして、一緒に作業をしてきたけれど、任せる事ができ成長と、体格的なたくましさを感じ、こんなにも子ども達と同じ時間・空間を共有するのもそう多くないかと思うと、急に降ってきた貴重な3カ月であった。そう思えるのも、農業を生業としているのと、田舎暮らしというのはとても大きな要素であった。

家族同士、外作業ということで、マスクを着けて過ごさないといけない時間も少なく、空間がひろがる田舎ならではの環境で、気持ちの面でも窮屈でなくいられたのはとてもありがたかった。子ども達との作業中、なんだか視線を感じていた。規制もあり通る車も少なかったがこちらをチラチラと横目で見ていられる。ここ米どころ坂井平野でも子どもたちが田んぼで遊んだり、手伝う

作業はほとんど目にしない光景になっているし、それも4人の子もがいて珍しい風景だったのかもしれない。子ども達も、普段平日は学校と部活、土日も試合や遊びなどで家の外で過ごす時間も長いので、あらためて父親の仕事を間近で見られ、見せられ共有のできたい時間であった。それぞれ、将来自分がどんな職業に就くのか考える頃、また反抗期でもある次男、3男にとって父親がどんな姿に映り、一緒に感じたのか、しばらくしたら聞いてみたいと思う。

そんなこんなで、今年の米作りは例年とは違っており、宗一郎も気合が入っていた。そもそも米も麦も大豆も作付けできるのは一年に一度きりのチャンス。なので集中力の中に緊張感がある。子どもように大切な作物。時には、子供以上かもと側で見ていて感じるほど。6月に入り学校が始まり、田植えと麦刈りも大豆の種まきも終わり、さあ、これから大豆も稲も生育の時期となるはずが、この長雨と涼しさのおかげで、普段通りに進まない。生育の状況を読めないし、読んでも、その通りにいかないの、とにかく空を見て、天気予報を見て過ごす日々。宗一郎のipadには、天気予報の履歴ばかりが並ぶ。『天気が安定しない→宗一郎はそわそわ→気持ちも安定せず落ち着かない』という悪循環になり、家の中も落ち着かない。今年は週間予報全部雨!!という週が幾週も続いたため、気もそぞろな時期が本当に長く、こちらも珍しく気を使った。雲の流れを変えることはできないので、玄関や食事するところ、休むところ、事務所を磨いて磨いてということ可能な限りがんばった。それと、末っ子ももかが明るく、マイペースにチャームングなので、気分転換にずいぶんと助けられていただろう。

そして、冒頭の収穫。  
なんとまあ、たまらないたまらない。刈れども刈れども、籾が少ないのである。そう、太く育ったおいしそうな茎は害虫にとって最高のごちそうであり寝床、産卵場所となってしまう。結果、枯れて、見事に実りのない稲穂になってしまったという始末。今回の米作りはなばたけ家族総出の最高の米となって実を結ぶはずだったのに…夫婦ともにショックは隠せませんが、宗一郎はもう来年の米作りに頭は切り換えている。今年はお米の収量が少ないのがなんとも残念ではありますが、味と品質は最高のものになっています。どうぞ楽しみに召し上がってください。

いのち  
生命を育む農場

# なばたけ農場

TEL/FAX: 0776-68-1951 kome@nabatake-farm.jp